



あかね

第3号

平成30年6月発行
独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター
広報委員会

今年度より、患者さんへ知識を提供し、健康生活に役立てて頂けるように、広報誌「あかね」を発行しています。第3回目は梅雨のムシムシする時期に繰り返す水虫に対する内容となっています。

水虫(みずむし)について

皮膚科 鵜飼 佳子

日本では5人に1人は水虫に感染していると推定されています。特にこれからの梅雨の時期から夏にかけての蒸し暑い時期は、水虫の患者さんが特に増える時期です。今回は皮膚科より水虫の話をしていただきます。

①水虫の原因は？

水虫はカビの一種である白癬菌が、皮膚の角質層に寄生することによって起こる皮膚の病気です。白癬菌は手や体にも感染しますが、9割近くは足です。足に繁殖しやすいのは、靴を履くために足がむれ、菌にとって過ごしやすい高温多湿な環境を作るからです。

②水虫に感染するしくみ

白癬菌は、水虫にかかった人の皮膚から剥がれ落ちる角質（鱗屑）の中にも生きているので、それを素足で踏んだりして菌が付着することにより感染します。しかし菌が付着しただけで、すぐに水虫になるわけではありません。感染が成立するのは、洗い流されずに残った菌が、傷ついた角質から入り込み、なおかつ繁殖しやすい環境にあった場合です。菌が付着してから最短12時間で菌が皮膚に侵入すると言われています。

③水虫の診断

水虫と似た他の皮膚炎（湿疹や掌蹠膿疱症、乾癬など）もあるので、見かけのみでは診断が困難なことがあります。皮膚科では、病変部から角質を剥がし取り、顕微鏡で菌を確認して診断します。

④水虫の対策

水虫になる危険度は「水泳」1.3、「靴を8時間以上履く」1.43と比べて「家族に水虫がいること」は22.27と圧倒的に高くなります。スリッパやバスマットの共有は避ける、皮膚の鱗屑はきちんと掃除をするなどの対応が必要です。水虫を治すためには、まず家族全員で水虫の診察・治療を受けることが大切です。

⑤水虫の治療

足白癬については塗り薬で治療できます。皮膚炎がない部分にも白癬菌がいる可能性がありますので、自覚症状がない部分も含め、指の間から足の裏全体に最低4週間毎日治療を続ける必要があります。しかし爪や爪の下に菌が侵入している場合は難治であり、飲み薬が必要な場合があります。最近爪への浸透が高い塗り薬もあります。

水虫が心配と思われた方は一度皮膚科を受診ください。

編集後記：平成30年4月より、当センターから患者さん向けの広報誌を発行することとなりました。皆様の興味関心のある情報について発信できるような内容にしていきたいと思っております。暖かくご支援くださいますようお願い致します。

発行元：広報委員会（鳥原）